

## 国際化学肥料ニュース (2015年3月)

### 肥料業界の2015年3月動態

\* 世界の塩化加里需給動向について：

北米地域は、アメリカの塩化加里需要が軟調である。2014年12月、アメリカの塩化加里輸入量91万トン、前年同期より27万トン減少した。輸入元の内訳は、カナダ83万トン、チリ4.4万トン、ロシア2.6万トン、イスラエル2.2万トンであった。

また、カナダのAgrium社は開発中のVanscoy加里鉱山の拡張工事が計画通り2017年末に完成し、生産能力が200万トン/年から300万トン/年に増加する。

ロシアとベラルーシは、塩化加里の生産と輸出が順調である。ロシアUralkali社が所有のSolikamsk2号加里鉱山は鹹水の逆流により生産中止となり、200万トン/年の生産量が減少するが、他の鉱山が100%近く稼働して、2015年に1100万トン生産する計画である。一方、ベラルーシのBCPが2014年の加里肥料輸出量が66%増の950万トンに達したと発表した。

インドは、国内の塩化加里在庫量が不足で、2月末現在17.5万トンしかなかった。4～12月の塩化加里輸入量が40～50万トン/月を維持し、2015年計550～600万トンを輸入する予定である。現在、各大手塩化加里メーカーとの間に2015～2016年度の塩化加里輸入基本契約を商談中で、3～4月中に決着するだろう。

ブラジルは、2014年塩化加里輸入量914.4万トン、前年度より150.9万トン増加し、史上最高となった。今年もほぼ同様の数量を輸入すると推測される。現在、売手の提示価格がCFR365～370ドル/トンで、買手がCFR355～360ドル/トンで応酬している。

中国は、塩化加里の資源開発を強力に推進した結果、2014年に塩化加里生産能力1075万トン、実生産量877万トンに達した。また、2014年の塩化加里輸入量約800万トン、輸出量も約60万トンになり、自給率が50.3%となった。現在、各大手塩化加里メーカーとの間に2015年上半期の塩化加里輸入基本契約を商談中で、3～4月中に決着するだろう。

\* インド政府は今年4月からの新年度の化学肥料補助金政策を正式に決定した。2015～2016年度の化学肥料補助金は2014～2015年度とほぼ同様で、りん酸肥料と加里肥料への補助金額が8.7%増の3.62億ドルになるが、世界的原油安の影響で、尿素への補助金がやや減少する。

- \* ベトナム「Economy Times」紙の報道によれば、ベトナム化学肥料協会が2015年ベトナムの化学肥料需要量約1083万トンと予測する。その内訳は尿素210万トン、硫酸85万トン、加里110万トン、DAP98万トン、過りん酸石灰等のりん酸肥料180万トン、化成肥料400万トンである。また、ベトナム政府工業貿易省は、この数年間に化学肥料工場の新設と生産技術導入の結果、化学肥料需要量の80%が国内生産で賄うことができ、特に尿素、化成肥料、りん酸肥料が自給できると発表した。
- \* 2014年、中国のアンモニア生産量が5699.49万トン、前年度より0.8%減少した。2010年から中国のアンモニア生産量が急速に増加したが、需要不足で、2014年が初めて減少した。
- \* 3月19日、中国とベラルーシBPC社との間に2015年塩化加里輸入契約を締結した。輸入価格CFR315ドル/トンで、2014年の契約価格より10ドル/トンの値上げとなった。  
この契約に対して、ロシアUralkali社が遺憾の意を表明した。カナダCanpotex社がコメントを拒否した。上記2社は中国側との商談に2014年より25～30ドル/トンの値上げを要求した。しかし、ベラルーシBPC社の行動により、同じく10ドル/トンの値上げになる可能性が大きい。  
中国の塩化加里輸入契約の締結は、現在行っているインドとブラジルの塩化加里輸入価格の商談に大きく影響を及ぼし、2015年の塩化加里の国際市場価格が小幅の値上げに止まるだろうと予測される。  
参考として、2015年日本とカナダCanpotex社との間に締結した塩化加里の輸入価格がCFR410ドル/トンである。
- \* 原油価格の下落と尿素需要不振で、ヨーロッパ産尿素的の価格が低下し続ける。3月13日トルコのKastamonu社が行った尿素入札では、落札価格がCFR279ドル/トンと281ドル/トンであった。黒海からの貨物である。
- \* 2015年上半期マレーシアの塩化加里輸入価格がCFR330ドル/トンで決定したようである。また、マレーシア2014年の塩化加里輸入量163万トン、前年度より29%増であった。
- \* 2014年日本が塩化加里36.8万トンを入力した。原産国の内訳は、カナダ23.4万トン、ヨルダン4.8万トン、ベラルーシ2.9万トン、ドイツ2.5万トン、ロシア2.2万トン、イスラエル1.0万トン。輸入商社の内訳は、全農15.7万トン、三菱商事7.1万

トン、三井物産 5.8 万トン、住友商事 3.1 万トン、伊藤忠 2.6 万トン、全農グリーンリソース 2.5 万トンであった。

一方、2014 年日本が硫酸加里 8.3 万トンを輸入した。原産国の内訳は、ドイツ 3.6 万トン、台湾 3.4 万トン、ベルギー 0.6 万トン、フィリピン 0.5 万トン、韓国 0.3 万トン。輸入商社の内訳は、全農 5.3 万トン、三菱商事 1.3 万トン、三井物産 0.9 万トン、住友商事 0.8 万トンであった。

\* 3 月 30 日、カナダ Canpotex 社が中国との間に 2015 年塩化加里の輸入価格に関する契約を締結したと発表した。輸出数量 180~240 万トン、CFR 価格 315 ドル/トンであり、3 月 19 日に締結したベラルーシ BPC 社との輸入契約と同じ価格である。

\* 3 月 31 日、インド政府がインド国内の尿素工場に原料天然ガスを統一の価格で提供することを発表した。これにより、インドの尿素生産コストが輸入尿素より安くなり、メーカーの生産意欲を高め、尿素への補助金を減らせる目論見である。

また、インド政府は 2004 年に老朽化で閉鎖された Hindustan 社の Barauni 工場とインド化学肥料 (FCIL) 社の Gorakhpur 工場を再開することも決定した。設備の更新等に必要な投資額は 1000~1200 億ルピーで、尿素生産能力が 300 万トン/年以上増加する。

現在、インドには 30 ヶ所の尿素工場があり、その 27 ヶ所が天然ガス、3 ヶ所がナフサを原料とする。2013 年国内の尿素需要量 3000 万トンであったが、国内生産量が 2300 万トンで、200 万トンがオマーンにある合弁会社から輸入して、500 万トンが国際市場から調達した。インドの尿素の需要量が 2017~2018 年度には 3400 万トン、2024~2025 年度には 3800 万トンに増え続ける予測で、国内生産能力の増強が急務である。

\* ベラルーシからの報道によれば、ベラルーシは 2015 年 1 月の塩化加里輸出量 76 万トン、前年同期より 46%増加し、平均輸出価格 297 ドル/トン、総輸出金額 2.25 億ドル、前年同期より 60.6%増加した。

### 大手各社の営業業績

\* ロシア Uralkali 社は 2014 年の業績を公表した。加里肥料と製品の販売量 1230 万トン、売上高 35.6 億ドル、営業赤字 6.31 億ドルであった。

2015 年の業績について、Solikamsk 2 号加里鉱山の鹹水逆流事故で、当該鉱山が生産停止となり、加里肥料生産量が約 200 万トン減の 1020 万トンと予測する。

- \* ノルウェーYara 社は 2014 年の業績を公表した。前年度に比べ、肥料販売量が 11%増の 2631.7 万トン、営業利益が 30%増の 9.7 億ドル、純利益が 32%増の 9.53 億ドルであった。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* デンマークの Haldor topsoe 社、ドイツの Man ferrostaal、パキスタンの FaujiFertilizer の 3 社から成る企業連合体は、アフリカのタンザニア国有石油開発公社との間にタンザニアに大型化学肥料工場を建設する基本契約を締結したと発表した。当該化学肥料工場は 2019~2020 年に完成し、生産能力 130 万トン/年、総投資額 10 億ドル超である。
- \* ウズベキスタン政府は、日本の三菱重工業が Navoiazot に建設予定の大型アンモニアと尿素工場に落札したと発表した。当該尿素工場は地元産の廉価天然ガスを原料として、生産能力がアンモニア 66 万トン/年、尿素 55.75 万トン/年、2015 年着工、総投資額 96.2 億ドルの予定である。
- \* アメリカの Mosaic 社はカナダ Saskatchewan 州 Esterhasy にある K3 加里鉍山を開発すると発表した。2 セットの鉍山採掘施設と精製工場を建設し、投資額 13.4 億ドル、生産能力塩化加里 90 万トン/年、2017 年に完成する予定である。
- \* ロシア Uralkali 社は 3 月 5 日に開催された取締役会に昨年発生した Solikamsk 2 号加里鉍山の鹹水逆流事故を受け、当該鉍山の採掘トンネルの修復を断念し、その鉍山近辺で新たに加里鉍山を建設することを決定した。

その計画は Solikamsk 2 号加里鉍山の採掘トンネルの周辺地質が安定で、鉍山の付属設備も被害を受けていないため、採掘トンネルの付近で新たに 2 本の採掘トンネルを建設することである。2015 年着工、2020 年に完成する予定である。

また、Solikamsk 3 号加里鉍山に新たに採掘設備を導入して、2017 年に完成するほか、Bereniki 4 号加里鉍山の生産能力も引き上げることで、Solikamsk 2 号加里鉍山の失った 230 万トン/年の生産量を取り戻す。総投資額約 45 億ドル。2020 年に全社の塩化加里生産能力を 1440 万トン/年に引き上げ、世界最大の加里メーカーの地位を奪い返す。

### その他

- \* イスラエル ICL 社はストライキの影響で、死海にある加里生産ラインを全面停止した。労働組合は政府が ICL 社のリストラ計画を支持すれば、ストライキをさらに拡大して、継続すると警告した。

- \* 中国農業省の担当者は、中国の化学肥料使用量が世界一で、世界使用量の約 1/3 を占め、アメリカとインドを合わせた数量に相当すると述べた。

中国の化学肥料施用には次の 4 つの問題があると指摘される。 1. 単位面積の施用量が多すぎる。中国の化学肥料平均施用量が 32.8kg/10 アール、世界平均の 12kg/10 アールを大幅に超えて、アメリカの 2.6 倍、EU の 2.5 倍である。 2. 地域と作物による施肥量が著しく不均衡で、東部沿海地域、揚子江下流地域と都市部の郊外地域が高く、野菜・果樹等の園芸作物に過量の施用が多く見られる。 3. 有機肥料が有効利用されていない。 4. 伝統の人手撒き、地表撒きが主流で、機械撒きや深層施肥が普及されていないため、肥料の利用率が低く、30%しかない。

- \* 3月30日、イスラエル ICL 社がカナダ Allana Potash Corp 社のすべての普通株式を購入し、完全子会社にすることを発表した。2014年、ICL社がAllana社の16.36%株式を買収した。今回は残りの普通株式を1株0.5カナダドルの価格で買収し、買収総額約1.37億カナダドルである。

Allana Potash Corp 社はアフリカのエチオピア Danakhil 砂漠に塩化加里の採掘権利を有し、塩化加里の生産量が100万トン/年で、採掘期間が25年である。